

「移動する子どもたち」の ことばの学びをどう支えるか —「鈴鹿モデル」と「目黒モデル」

川上郁雄(早稲田大学大学院
日本語教育研究科
kawakami@waseda.jp

今、学校で何が起きているのか

「外国人登録者」数 200万人以上

「日本語指導が必要な外国人児童生徒」数
約3万人

外国人集住都市(28都市)

その一つが、三重県鈴鹿市

移動する時代

大人が移動する理由

労働、移住、避難、結婚(離婚)、
留学、旅行 etc.



「移動する子どもたち」
「移動せざるをえない子どもたち」

3

早稲田大学の取り組み

- ▶ 日本語を学ぶ子どもの
日本語の力をどう捉え、
どう実践を組み立てるのかを、
学校・行政・大学が一体となって
取り組んだ実践

4

第二言語教育としての日本語教育

▶ Japanese as a **S**econd **L**anguage: **JSL**

▶ JSL児童生徒への教育的課題へ向けて

1. 専門的コーディネーター
2. JSLバンドスケールの導入
3. 授業デザイン

→「鈴鹿モデル」

5

「鈴鹿モデル」

▶ **基本は、人づくり**

▶ 教員研修用のDVD制作

指導者研修のためのDVDセット／

年少者日本語教育の最前線

『JSLの子どものことばの教育を創造する
—「鈴鹿モデル」の挑戦—』

6

『JSLの子どものことばの教育を創造する —「鈴鹿モデル」の挑戦—』(DVD3枚組)

Disc1

「日本語教育コーディネーター」とは、どんな仕事？

Disc2

「JSLバンドスケール」:日本語能力を把握するものさし

Disc3

日本語指導の実践をどのようにデザインするか

7

さらに、教員研修用のDVD開発

『子どもの学びをどうつないでいくか
—鈴鹿市立牧田小学校の実践—』

(2011)

『目黒の年少者「日本語教育コーディネーター」』

(2012)

8

DVDを教員研修に貸し出し中

- ▶ 現在、「鈴鹿モデル」を全国の教員研修に利用していただくため、貸し出しを行っている。
- ▶ 配布資料参照

9

お問い合わせ先

- ▶ 早稲田大学大学院
日本語教育研究科

<http://www.waseda.jp/gsjal/index/html>

10